

令和元年6月24日現在

機関番号：37104

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K21542

研究課題名（和文）ブログにおけるスポーツのメディア言説に関する研究

研究課題名（英文）Analyzing Media Content of Sport in Blog

研究代表者

大橋 充典（Mitsunori, Ohhashi）

久留米大学・その他部局等・講師

研究者番号：30760037

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新聞に掲載された記事とブログに掲載された記事それぞれについて比較し、オンラインメディアにおけるスポーツのメディア言説の特徴について明らかにすること、また新聞における記事の内容とブログにおける記事の内容を時系列的に比較することによって、スポーツにおける一次情報から二次情報への変化について検討することであった。ブログの記事は、マス・メディアから情報を得た投稿者によって、コメントや意見を付け加えることで再言説化される傾向にあった。ブログの投稿者は、マス・メディアからの情報に後押しされる形で、循環する現実と物語の間で意味付けを行っていたといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ブログにおける夏の甲子園野球に関する言説の分析から、オンラインメディアにおけるスポーツの言説について検討することが目的であった。オンラインメディアによる情報収集が一般的になりつつある一方で、国内における関連研究の蓄積は十分であるとは言えない。したがって、本研究成果はメディア・スポーツ研究に新たな研究視座を与える基礎的な研究として位置付けることができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to compare articles which were published in newspapers with articles which were posted in blogs and thereby clarify the characteristics of media discourse of sport in online media. The present study was also intended to examine the shift from primary to secondary information in sport by comparing article content of newspapers and blogs in chronological order. Blog articles tended to be re-workings of information obtained information from mass media with added comments or views. Pushed by information from the mass media, blog contributors were assigning meaning between a circulating reality and narrative world.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：メディア 報道 新聞 ブログ スポーツ 高校野球 甲子園

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

これまでのメディア・スポーツ研究は、主にマス・メディアに焦点が当てられ、「メディア・メッセージの制作過程」、「メディア・メッセージの内容」、そして「メディア・メッセージの受容過程」の3領域を中心に進められてきた。これらの研究では、スポーツにおけるメディア言説は「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「競争主義」、「消費主義」、「暴力」などを中心としたテーマの中で、イデオロギーを強化するように作用してきたことが報告されている(Harris and Kinkema, 1992)。例えば、全国高等学校野球選手権大会（以下、夏の甲子園野球）は日本高等学校野球連盟と朝日新聞の共同開催であるが、朝日新聞やNHKなどの中継において、「フェアプレー」や「純真」といった理想化された「青年」像や「若者」像が描かれてきた(清水, 1998)。

ところで、これまで新聞や雑誌などの印刷メディア、テレビなどの映像メディアなどに代表されるマス・メディアが情報収集の中心的存在であったが、2000年以降においては、Yahoo!やGoogleといった検索エンジンの登場とともにインターネットが情報収集方法の主流となりつつある。近年では、Weblog(ブログ)やソーシャルネットワークサービス(SNS)、またTwitterなどの登場によって、マス・メディアから情報を一方的に受信する立場にあった視聴者たちは、情報の発信することが可能となった。井上(2012)は、マス・メディアによって発信された情報が、新たな情報の発信者によって「多層化」されていくことに関して、情報の「現実」と「虚構」の区別が不明確になることを指摘している。

### 2. 研究の目的

本研究における目的は以下の二点とした。一点目の目的は、オンラインメディアにおけるスポーツの言説の特徴を明らかにすることである。二点目の目的は、スポーツのメディア言説が、マス・メディアからオンラインメディアへどのように変化していくのかについて明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

まず、オンラインメディアにおけるスポーツの言説の特徴を明らかにするために、オンラインメディアにおけるスポーツ言説とマス・メディアにおけるスポーツの言説について、比較分析を行った。その後、言説がマス・メディアからオンラインメディアに移行する過程で、どのように変容しているのかについて検討した。

資料については、2006年から2015年までの読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、およびブログに掲載された夏の甲子園野球に関する記事を収集し、分析を行った。ブログについては、日本最大のオンラインスポーツ情報サイトであるSportsnavi内に開設されているSportsnavi plusの中から、高校野球のカテゴリーに分類された記事を対象とした。Sportsnavi plusは利用上、いやがらせや悪口といった有害な内容の掲載は禁止されており、またSportsnaviあるいはYahoo!Japanのアカウントを所持していないと投稿はもちろん、投稿された記事へのコメントも行うことができない。したがって、意味をなさない書き込みや過剰な批判による「炎上」が生じにくく、一定の秩序が保たれた双方向性を持つメディアとして妥当であると判断した。

### 4. 研究成果

#### (1) 新聞記事とブログ記事の違い

本研究における一つ目の課題は、新聞に掲載された記事、およびブログに掲載された記事それぞれに関して比較を行うことで、オンラインメディアにおけるスポーツのメディア言説の特徴について明らかにすることであった。

まず、新聞における記事の内容については、チームの特徴、試合結果、見どころ、またチームあるいは選手と関連した物語が主たるものであったが、例えば決勝戦で延長再試合となった2006年の早稲田実業と駒大苫小牧の試合は、斎藤佑樹と田中将大の両投手に注目が集中し、個人主義的な報道が際立った。大会終了後も彼らの進路を中心とした周辺的な話題と、彼らの成功を物語る様々な記事が確認された。また、東日本大震災が生じた2011年には、大会の開催自体の是非を問うような報道が大会前には散見された一方で、大会終了後には日本に勇気や希望をもたらしたポジティブな大会であったという内容が紙面の大部分を占める結果となった。

次に、ブログにおける記事の内容については、まず投稿者は、主にジャーナリスト、雑誌編集者、そしてスポーツのファンに大別されていた。投稿された記事の多くは、試合結果と試合内容に関するものであった一方で、新聞に掲載された記事の内容とは異なる、投稿者が持つ独自の視点から語られた内容についてはほとんど確認できなかった。研究開始当初、情報を自ら発信できる立場に転じた視聴者は、独自の視点にもとづいた幅広い記事を投稿しているのはいか、という仮説を設定していたが、本研究において収集された資料からは、上記のような内容はほとんど確認されなかった。この点については、以下の3点を前提とした上で考察を加えたい。第一に、報道機関の多くは、情報を共有した上で発信している。第二に、投稿者の多くは、一次情報をマス・メディアから得ている。第三に、Sportsnavi plusへの投稿者は、高校野球に対して肯定的な意見を持つ視聴者である可能性が高い。一部の新聞記事からは、2007年に報道された裏金問題や特待生問題、また2011年の東日本大震災後の大会開催の是非など、高校野球や高校野球連盟に対する批判的言説が確認された。しかしながら、多くのブログ記事においては、こうした批判的言説は確認されず、新聞記事における報道内容と大きく異なっ

はいなかった。つまり、マス・メディアから一次情報を得た投稿者は、その内容についてコメントや意見を付け加えることで再言説化する傾向にあった。ただし、新聞記事で数多く取り上げられた内容が、必ずしもブログ上でも取り上げられる状況になっていたとは言えない。それは、投稿者ごとに興味の対象が異なること、またマス・メディアにおけるメディア・バリューが、投稿者にとってのメディア・バリューとは必ずしも一致しないことが理由としてあげられる。

### (2) 新聞記事からブログ記事への変化

本研究における二つ目の課題は、夏の甲子園野球に関して、新聞における記事の内容とブログにおける記事の内容を時系列的に比較することによって、スポーツにおける一次情報から二次情報への変化について、検討することであった。

例えば 2011 年の朝日新聞の記事には、震災の影響によって中止を余儀なくされたイベントが取り上げられた一方で、スポーツなどの開催を自粛することは社会の活力を失わせるとし、甲子園大会の開催が復興への前向きなイベントとして報道されていた。それは、被災した球児たちが逆境を乗り越え、非日常体験としての甲子園大会を楽しんでほしいという期待と希望が入り混じる激励の言葉としてあらわれ、また大会終了後には、震災の被害にあった選手や家族、また選手を取り巻く環境の変化がみんなに力を与えた大会として、人々の心に記憶される物語として描かれていた。ブログの記事では、大会日程が進行するにしたがって、青森代表の光星学園優勝の物語が意識されていく。大会開催当初の記事では「今年の大会が例年と同じように開催されることは本当に凄い」(2011 年 8 月 6 日付、下線は筆者) という本大会の開催自体を特別な出来事として捉えた記述が確認された一方で、被災した東北地方の代表校に対して「高校生が背負うには重すぎるかもしれない、みんなの『想い』を背負って」(2011 年 8 月 20 日付、下線は筆者) 大会に臨んでいたことが強調されている。いずれの記事も、現実としての被災とスポーツが結びつけられているが、森田 (2012) によれば、悲劇とスポーツが結びつけられる物語には、「儀礼」と「権力」の二つの役割があるという。「儀礼」としての物語は、日常を前に進めるために日々報道され、消費される一方で、「権力」としての物語は、その消費をとおしてわれわれに安心感を抱かせる。つまり、本来、震災後半年にも満たない状況下でスポーツの大会など開催できるはずもないという現実と、スポーツを通じた夢や希望、あるいは東北勢悲願の優勝への期待とが結びつけられるよう徐々に意味付けが変化していたのではないだろうか。

### (3) 今後の展望

本研究における一つ目の課題は、新聞に掲載された夏の甲子園野球に関する記事と、ブログに掲載された夏の甲子園野球に関する記事のそれぞれについて分析を行うことで、オンラインメディアにおけるスポーツのメディア言説の特徴について明らかにすることであった。また、二つ目の課題は、マス・メディアからオンラインメディアへ言説がどのように移行するのかについて、明らかにすることであった。特に、二つ目の課題として設定されたマス・メディアからオンラインメディアへの変容過程については、より精緻な分析が必要となる。今後の具体的な検討事項は以下のとおりである。

一点目の課題として、マス・メディアからオンラインメディアへの言説の変容過程に関するより精緻な時系列的な分析を進める必要がある。本研究では、言説に関する短期的な変化しか検討することができていないため、より長期的な言説の変容を追う必要がある。

二点目の課題として、より長期的な言説の変化を検討する過程で、言説への言説(投稿に対する書き込みやコメント)の分析についても検討する必要がある。オンラインメディアの特徴は、個人が発信した情報に対して、別の個人がその内容に関する情報を発信できる点にある。そのため、それぞれの言説を分析することによって、言説の変容について詳細に検討することが可能だと考えられる。

### (4) 国内外におけるインパクト

運動部活動の文化は日本特有のものであり、またオンラインメディアの言説に関する研究は日本において蓄積が少ない領域である。本研究における成果は、国内外の学会(アイルランド、カナダほか)において発表されたが、特に欧米の研究者からの関心は高い印象を受けた。

### 〈引用文献〉

- ① 井上俊 (2014) 「現代文化のとらえ方」, 井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp. 1-16.
- ② Kinkema, K. M. and Harris, J. C. (1992) "Sport and the mass media", *Exercise and Sport Sciences Reviews*, 20: 127-159.
- ③ 森田浩之 (2012) 「3.11 とメディアスポーツ-物語の過剰をめぐって-」, *スポーツ社会学研究* 20(1), pp. 37-50.
- ④ 清水諭 (1998) 『甲子園野球のアルケオロジー--スポーツの「物語」・メディア・身体文化』, 新評論.
- ⑤ 朝日新聞: 社説「震災と暮らし 一冊の本とボールの力を」, 2011 年 3 月 30 日付朝刊.
- ⑥ 朝日新聞: 社説「高校野球開幕 気負わず、楽しもう」, 2011 年 8 月 7 日付朝刊.

- ⑦ 朝日新聞：社説「甲子園閉幕 みんなの夏が輝いた」, 2011年8月21日付朝刊.
- ⑧ *Sportsnavi plus*  
<http://www.plus-blog.portsnavi.com> (最終閲覧日 2018年1月30日)

## 5. 主な発表論文等

[学会発表] (計 4件)

- ① Mitsunori Ohhashi (2018) A Comparison of the Japanese Sports Blogosphere and Newspaper. XIX ISA World Congress of Sociology. Toronto (Canada, Oral)
- ② Mitsunori Ohhashi (2018) Online Sports Culture: A Case Study of Japanese Sports Fan Blog. The 23rd annual Congress of the European College of Sport Science. Dublin (Ireland, Poster)
- ③ 大橋充典 (2017) オンラインメディアにおけるスポーツの言説空間-高校野球に関する記事の分析より. 第66回九州体育・スポーツ学会 (福岡大学, 口頭)
- ④ Mitsunori Ohhashi (2017) Discourse of the sport blogosphere: A case study of Japanese school baseball event. The 22nd Annual Conference of East Asian Sport and Exercise Science Society. Jeju (Korea, Poster)